

はじめに

各地の方言の中には、地域特有の表現でありながら方言だと認識されていない「気づかない方言」と呼ばれるものがある。特に共通語と同形の語が、共通語では使わない意味で用いられるような場合は特に気づきにくい。「おかしい」が「はずかしい」、「すぎる」が「よりかかる」、「ぐれる」が「捻挫する」のように用いられると、コミュニケーションの上で誤解を招いてしまうこともしばしば生じる。

同じ呼び名であっても指示するものが異なるような場合も紛らわしい。山梨の食堂ではメニューに「かつ丼」と「煮かつ丼」が並んでいる。「かつ丼」は、ご飯の上にキャベツととんかつが乗せられた、いわゆるとんかつ定食のどんぶり版なのである。卵でとじた一般的な「かつ丼」

は「煮かつ丼」と注文しなければ食べられない。逆に、山梨出身の知人が東京で「かつ丼」を食べようと思ったら揚げ物なのに煮られていてびっくりしたという話もある。日本国内なのに言葉が通じないという状況に陥るのである。

このような地域特有の表現を本書では広く方言と捉え、題名も、東京の「きつねそば」を大阪で食べる時は「たぬき」と注文しなければならぬことに由来する。

当然のごとくドヤ顔で発した表現に、「えっ!？」と返される、そんな方言のおもしろさを本書で味わっていただければ幸いです。